



進路ニュース

令和3年夏季面談号
藤代高等学校進路指導部



1 「ひろゆき」の話

(1) 『1%の努力』を読みました(図書室にあります)

我々おっさん世代にとってはインターネット掲示板「2ちゃんねる」の創始者として、みなさんの世代にとっては人気ユーチューバーとして有名なひろゆき氏は、学生向けの講演会では「壺の話」をするそうです。

(2) 「壺の話」のあらすじは以下のとおりです

「ある大学教授が教卓に大きな壺を置き、岩を入れていきました。岩が壺の上面までくると、学生に聞きました。『この壺は一杯になったかな?』『はい、先生。』。すると先生は壺に小砂利を取り出しました。小砂利を壺の縁まで入れると聞きました。『これで一杯になったかな?』『はい、先生。』。次に先生は砂を持ってきて壺に入れて言いました。『これで一杯かな?』。もう学生からは返事がありません。そこで先生は壺に水を入れていきました・・・。」ひろゆき氏はここまで話した後、「この話の教訓を『無理矢理壺に入れれば何でも入る』と誤解している人が多いのですが・・・」と続けます。



(3) この話の教訓は「無理すればなんとかなる」ことではありません

そうではなくて、心に刻まなければならないのは「**一番大きな岩は最初にしか入らない**」ことであるとひろゆき氏は言います。「これから先、大学、就職、結婚と人生が進むにつれて色々な条件が増えてきて、人生を変えようと思っても、だんだん変更できることが小さくなって行って、大きな修正はきかなくなってくる。だから自分の人生という壺に何を最初に入れるべきかを、今よく考えよう。」と若者たちに向かってアドバイスしています。

(4) みなさんにとっての「大きな岩」はなんでしょう

1年生にとっては、**文理コース分け**でしょうか。実際に卒業生の話を見ると「1年生の時は卒業後の進路は遠い先の話で、実感がないままコースを決定してしまったけれども、後から考えるとあれが一番大きかったと思う。」と話す人は多いです。文系コースに進んでしまってから、独学で物理や生物の勉強をして理系の大学を受験するのは大変です。理系から文系に行くのも同様です。

2年生や文理コース選択が決まっている1年生の中には、**大学に進学するかどうか**という問題で迷っている人もいます。専門学校や就職の道に進んでから、あらためて大学に入り直すということは不可能ではないと思いますが、学習面からも経済的な面からもハードルは高いと思います。大卒とそれ以外の生涯賃金の差を考えると、学費が多くかかることを考えても大学に進学することがおすすめです。

(5) 5科目学習する意味

3年生にとっては5科目きちんと学習して**国公立大学を目指すのか**、それとも科目を絞って私立専願にするのかということがあがあると思います。ひろゆき氏もYouTubeで「**国公立大学と東京の私立大学ではどちらがおすすめですか?**」という質問にはいつも「**国公立大学**」と答えているようです。

毎年7月に発行している藤代高校の進路要覧には卒業生から後輩へのメッセージが掲載されています。迷っている人は昨年度版に掲載された、先輩たちの言葉を噛みしめてみてください。

先輩A「**苦手な科目から逃げないこと**。得意科目をやりたくなるのも、苦手科目を避けたくなるのも分かります。私がそうでした!英語と生物が苦手というかキライで、**ずっと避けていたのを後悔**。直前になって始めてみると、集中すればちゃんと覚えられることもわかりました。もっと力を入れてたら絶対点取れてたなって思います。とはいえ苦手ばかりに力を入れて得意な方を疎かにするのもまた問題でした。苦手な生物と得意な化学の点数が本番の共通テストでは逆転してしまいました。後悔。**結局「偏りのないように満遍なく勉強すること」が大事でした。**」

先輩B「やる気が出ないからって勉強しなかったから結果もそこそこだった。本当に行きたい大学があるのなら目標を定めて毎日ほんの少しでも勉強した方がいい。まだ大学を決めてなくても、**国公立大が合格できるくらい勉強しておけば選択肢が多くなる**からやっぱり勉強って大事だな、と思った。」

（６）今、得点率 24 %でも茨城大学合格

「もう間に合わない」と思っている人も大丈夫。今春茨城大学レベルの国公立大学に合格した人が現時点でどの程度の点数をとっていたかの下限値をまとめたのが左表です。

5月模試の時点では文系で30%、
なんと**理系では24%**しか得点できなかった人がちゃんと合格しています。現役生は最後の最後で伸びますので、自分を信じてがんばりましょう。

— 現役合格のポイント —

河合塾

共通テストからみる全統共通テスト模試成績の下限

	共通テスト 自己採点結果	ボーダーラインのめやす (大学)	5月 第1回全統 共通テスト	8月 第2回全統 共通テスト	10月 第3回全統 共通テスト	12月 全統プレイスメント 共通テスト
5・7 理系	90% ~	東京大・京大・医学部 医学科	62% ~	66% ~	66% ~	72% ~
	80% ~	東京工業大・東北大・大 阪大・名古屋大など	44% ~	50% ~	52% ~	58% ~
	75% ~	北海道大・筑波大・千葉 大・東京農工大など	34% ~	42% ~	42% ~	48% ~
	65% ~	埼玉大・群馬大・信州大・ 電気通信大など	24% ~	34% ~	36% ~	38% ~
5・7 文系	90% ~	東京大・京大	60% ~	62% ~	72% ~	71% ~
	80% ~	一橋大・東北大・大阪大・ 名古屋大など	40% ~	48% ~	56% ~	56% ~
	75% ~	北海道大・筑波大・横浜 国立大など	36% ~	42% ~	50% ~	52% ~
	65% ~	宇都宮大・新潟大・茨城 大など	30% ~	32% ~	40% ~	38% ~

共通テスト本番で9割以上得点した受験生の第1回全統共通テスト模試での下限は6割です。今回の結果で第1志望を諦める必要は全くありません！

2 国公立大学への近道はあるのか（総合型選抜・学校推薦型選抜編）

前回（5月PTA総会号）の『進路ニュース』で「国公立大への近道（抜け道）はあるのか」という話を掲載しました。意外に反響があったので続きを書きます。今回は総合型選抜・学校推薦型選抜編です。

昨今、国公立大学でも一般選抜以外の入試方法で入学している学生が増えていると言われてはいますが、本当でしょうか？調べてみましょう。

（１）国立大学協会（国大協）の公式発表

国大協が発表した入学定員に対する総合型・学校推薦型選抜の割合についての目標を検索すると、2018年の記事が出ていました。右の記事のとおり国大協の目標が達成されていたとしたら、2020年度からは入学者の2人に1人が一般選抜以外の入試方式で合格していることになるはずですが、本校を含め、茨城県の高校ではそんなに推薦で合格した生徒は増えていません。

旺文社 教育情報センター 18年11月

国立大学協会(国大協)はこのほど、入学定員に占める推薦入学の割合を20年度から見直すことを決めた。現行の「推薦3割目安」を「推薦+AO入試5割の範囲」に改め、AO入試の具体的な扱いを国大協として初めて入学者選抜の「実施要領」に明記した。

国立大の推薦・AO入試は、分離分割方式の弾力化などで拡大の方向にあり、選抜の実態に即してそれらの扱いを整理し、AO入試実施の体制整備も図られるようだ。

（２）募集定員における総合型・学校推薦型選抜の比率

2021年度入試における国公立大学の募集定員に対する総合型・学校推薦型選抜の比率は、実際のところどうだったのかを調べてみました。それをまとめたのが下表です。

弘前・福島・山形の東北地方の各国立大学はいずれも30%前後の高い比率を示しています。「5割」はともかく「3割」は達成していると言っていいいでしょう。

翻って、関東地方はどうでしょう。地元である筑波大学は29%と比率が高いです。ですが、もう一つの地元国立大学である茨城大学は15%と筑波大学の約半分しかありません。しかし、それはまだ良い方で、千葉大学10%→埼玉大学9%と、どんどん減っていき、東京大学に至っては3%と、極めて低くなっています。

総合型・学校推薦型の比率

国公立大学名	%
弘前大学	32%
福島大学	30%
山形大学	27%
筑波大学	29%
茨城大学	15%
千葉大学	10%
埼玉大学	9%
東京大学	3%

（３）国公立大学への近道としては？

国大協の目標からすると、将来的には総合型選抜・学校推薦型選抜で入学する人が「3割」とか「5割」になるのかもしれませんが、現状では同じ国立大学といっても対応に差があるようです。

もちろん、学校推薦型選抜や総合型選抜を利用してまで大学を受験するということは、なんとしてでもその国立大学に入学したいという意思の表れだと思います。ですから合格しやすさだけで受験校を決めることは良くないのですが、国立大学志望者で、同程度の難易度の大学で迷っている際には、国立大学なら地元の茨城大学よりも**東北地方の国立大学、難関大学なら筑波大学**を狙った方が、推薦での合格可能性はより高いと言えるのではないのでしょうか。わざわざ受験勉強の追い込み時期である秋の貴重な時間を費やして総合型や学校推薦型選抜を受験するのであれば、ぜひ合格してもらいたいと思います。検討の一助としてもらえれば幸いです。